

# Grow

No. **115**

**2026**  
March



## C O N T E N T S

会員の皆様へ..... 1

潮流..... 2  
～「縁の下の力持ち」に留まることを良しとせず、産業、生活、さらにはひとりひとりの生命までも支えている「物流業全体のvalue」をどう示していくか、注目度を高めるか、が、物流連の果たすべきミッションの第一～

長澤 仁志 一般社団法人 日本物流団体連合会 会長

令和8年 物流連 新春シンポジウム「物流人材の確保・育成」を開催... 5

令和8年 新年賀詞交換会を開催 ..... 10

将来を担う人材に物流の価値を伝える..... 12  
4日程(オンライン・東京・大阪)で「物流業界合同説明会」を開催

経営効率化委員会..... 14  
・障がい者活躍推進ワーキングチーム最終報告書を発行、公表

新たに「日本物流大賞」を創設しました ..... 15

令和7年度グリーン物流パートナーシップ会議 ..... 16  
物流パートナーシップ優良事業者表彰を実施

環境・サステナビリティ委員会 ..... 18  
・東京九州フェリー「それいゆ」船内を見学  
・「外航海運の脱炭素化に向けた取組み」をテーマに講演会を開催

会員企業をたずねる～女性の力、女性の声 ..... 20  
琉球物流株式会社  
倉庫部 倉庫第1課 玉城 彩音さん  
第一営業部 到着課 新垣 瑠花さん  
第一営業部 低温センター 上亀 遥さん

物流業界の「未来」と「舞台裏」を可視化 ..... 24  
日本物流団体連合会、公式X(旧Twitter)アカウントを開設

「数字でみる物流」2025～26年度版のご案内 / ..... 25  
最近の活動状況 / 編集後記



令和8年 物流連 新春シンポジウム



令和8年 新年賀詞交換会を開催



「物流業界合同説明会」を開催

# 会員の皆様へ

会長 長澤 仁志

昨年は、世界の政治・経済環境が一段と複雑化し、国境を越えたサプライチェーンを揺るがした一年でした。国際情勢に目を向けますと、各地で続く地政学的緊張や紛争、主要国の選挙を背景とした政策転換、保護主義的な通商姿勢の強まりなどにより、世界貿易は不透明感を増しました。また、地球温暖化対策というグローバルな共通課題に対して、秋口に行われた国際海事機関（IMO）の会合で国際海運の脱炭素規制の採択が1年延期されたことも、改めて環境問題への国際協調の難しさや、合意形成が一筋縄では進まない現実が露呈しました。国内に目を向けますと、震災などの度重なる自然災害に加えて、頻度を増すサイバー攻撃が国内の重要なサプライチェーンにダメージを与えるなど、防災を主眼としたインフラ強化に加えて、サイバー・リカバリーへの対応も物流強靱化に必要な重点分野であると認識されました。

また、「物流の2024年問題」が提起されて以降、国内の消費低迷や物流業界および荷主が協力し合っただけの輸送効率化、モーダルシフトの効果もあり、懸念されていた極端な国内の輸送能力の低下は生じていません。むしろ、最近の業界紙報道や優良事業者の表彰事例を見ると、荷主が従来にも増して主体的に物流事業者と共同して効率化を実現した多面的な取り組みも多く、物流が現場の力仕事だけでなくプランニング、設計にまで深化した産業であることが示されてきたと思います。元来、「すり合わせ」を得意とする日本人の強みが物流効率化という大きな課題解決に向け動き出し、トラックの輸送能力不足という物流業界のピンチが従来の輸送効率を改善し生産性が向上するチャンスに転じ始めた年であったと言えます。

こうした一年を振り返り、謂わば「不確実性が常態化しつつある」時代においても、将来の物流を担う若い人材が誇りをもって働ける産業へと進化させていく必要があります。検討会で多くの提言を受けて国が策定段階に入る2030年に向けた次期物流施策大綱もその内容が待たれるとこ

ろです。また、政府が進める重点投資17分野の中に複数の物流関連項目が含まれていることから、国策における物流の位置づけや重要性がより濃く現れていると思います。即ち、広範囲に及ぶ経済安全保障や国土強靱化・防災といった重要施策を物流が横串的に支えることが期待されているわけですが、国民生活や経済活動の基盤である物流サービスを安定的に維持、提供するためには、企業単位、業界単位では解決が困難な課題も多く、物流業界の連合会としても産官学の連携を一層深化させていければと思います。

結びに、本年が皆様にとって実り多き一年となりますこと、そして日本の物流業界がより強く、より信頼される存在へと進化することを祈念し、年頭のご挨拶といたします。



# 潮流



～「縁の下の力持ち」に留まることを良しとせず、産業、生活、さらにはひとりひとりの生命までも支えている「物流業全体の<sup>バリュー</sup>value」をどう示していくか、注目度を高めるか、が、物流連の果たすべきミッションの第一～

**長澤 仁志** 一般社団法人 日本物流団体連合会 会長

## ◆物流連会長としての任期1年目も、半ばを過ぎてきました…。

就任した当初は、物流連の役割や、その会長としての使命は何かについて、迷いもありました。物流の世界には、(一社)日本船主協会をはじめ、歴史ある業界団体があり、それぞれに重要な役割を果たしています。そうした中で物流連の役割に改めて思いを致してみると、まだまだ一般に知られていない物流全体のvalueや、物流業界で日々働いている人が果たしている<sup>エッセンシャル</sup>essentialな役割といったものを、もっと世間にお示しし、社会全体に知っていただきたい、ここにこそ、その役割があるのではと実感するようになりました。

新型コロナが猛威を振るってアメリカの港湾機能が麻痺した時には、荷主さんのトップが私のところに、サプライチェーンを何とか機能させてほしいと、直接電話をかけてこられました。社長どうしが直接ビジネスの話をするのは差し迫った事態です。それまで、荷主さんの物流は、部長クラスの方が判断されることが多かったと思いますが、コロナ以降、取締役会で諮られるようになってきました。ビジネスの世界では、物流のvalueは確実に向上してきていると感じます。

ただ残念ながらto C(一般消費者)の世界では、「送料無料」といった、物流のvalueが薄く見えてしまう

ような言葉がまだ使われています。また、学生の就職したい業界ランキングで下から数えた方が早いというのも、残念ながら物流業界のプレゼンスの現状を示していると言わざるを得ません。

とはいえ、先ほど述べたように、to B(企業)の世界では、確実に物流業界のプレゼンスは向上していると感じます。そのもう一つの例として、海運業界と一体となって海事クラスターを構成している造船業界が挙げられます。高市政権成立後の2025年11月、首相を本部長とする日本成長戦略本部が設置され17の戦略分野分科会が設けられていますが、その1番目はAI・半導体、それに次ぐ2番目が造船となっています。これには、日本経済新聞で海運に関する記事が掲載され、それが政府要人の目に留まったことがきっかけの一つとなり、AIや半導体と並んで政策に取り上げられた、という経緯があります。またアメリカでも同様に、商船建造能力の復活を目指す「海事行動計画」が策定されています。もちろんそこに至るまでには、様々な働きかけや紆余曲折もあり、一朝一夕にそうなったわけではありませんが、それまでの努力の積み重ねが実を結んだことは間違いありません。to Cの世界であっても、同じように地道に努力していけば、物流のvalueは確実に向上していきます。

◆業界のvalueやプレゼンスの向上は、若い世代に物流の魅力を知ってもらうためにもぜひ必要と思いますが、ご自身が物流業界に就職されたきっかけを教えてくださいませんか。またそのご経験から、若い世代に伝えたいことがあれば。

私が就職したのは1980年なのですが、同級生の半分くらいは金融や保険業界に就職しました。私は、海外で働くことに興味がありましたので、まずは商社の内々定をもらいました。当時の就職活動期間は、解禁日から1週間くらいが勝負という、現在とは比べ物にならないくらいの超短期決戦でしたが、今の学生さんは、考えながら研究しながら、長期にわたる就職活動をしているわけで、本当にご苦労と思います。で、肝心の日本郵船には、岩崎弥太郎以来の歴史ある会社だ、くらいのイメージしかなかったのですが、友人の勧めもあり受けてみることにしました。実は、ある大手メーカーも受けていたのですが、1週間しかない就活期間の、まる1日を拘束するような会社で、人の立場や気持ちに配慮しない姿勢に、気持ちが冷めてしまいました。あいにくとその拘束日が、日本郵船の面接と同じ日だったので、途中で日本郵船に「申し訳ないが面接に行けません、ご縁がありませんでした」と電話したところ、「いやいや、待っているからいつでも来てほしい」と言われ、夕方6時頃にやっと解放されて、なけなしのお金をはたいてタクシーで駆け付けましたが、終業後に対応してくれた社員は親しく迎えてくれ、その寛大な姿勢にほれ込んでしまいました。当時はオイルショックの影響が残り、また入社後には円高不況などもあり、海運業界を取り巻く環境は厳しいものがありました。そうした外部環境とは別の、人をそのように育てる会社の温かい雰囲気が、入社決め手となりました。

若い皆さんには、会社や業界の業績、あるいは待遇面といった数値化できる側面はもちろん大切ですが、それだけではなく、社員ひとりひとりの方向性を左右する集合体の雰囲気も大切だということをお伝えしたい。私の感じた暖かい雰囲気は、当社の社風というに留まらず、物流業界全体にも感じて

いますが、やはり、物流を通じて社会・経済を支え、役割を果たしているという自負が自信となり、そうした雰囲気を生み出しているのかな、と思っています。

当社は、昨2025年に創業140周年を迎えましたが、上におもねらず、自分らしさを出して率直に意見を言い合う、こうした文化が社業を支えてきました。まる1日私が拘束されたさきほどのメーカーにも良識ある社員はいたはずですが、結局、そうしたおかしなことがまかり通ってしまう文化的なゆがみがあったわけで、その後、その会社の業績は厳しいものになっているようです。逆に、物流業界を見渡すと、そうしたゆがみは見え、逆に皆がモラル高く、誇りを持って働いていると感じます。例えば、貨物の配送・配達に従事されているドライバーさんは、日々多くの業務をこなされているわけですが、トラブルは非常に少ないと思います。もちろん貨物の破損とか、一般家庭の方とのトラブル等はゼロではないでしょうが、海外と比べると非常に高いサービス水準が、当たり前前に提供されていると思います。こうした、日本では当たり前だが、実は多くの努力で成り立っている物流の実態をもっと知ってもらうには、いろいろなレベルでの働きかけがさらに必要と感じます。





◆海外との比較のお話もありましたが、お仕事柄、海外へ出かけられる機会が多いと思いますが、特に印象深かった国はどちらでしょうか。

二つありますが、一つはウクライナです。ギリシアの船主と一緒に、船舶の命名式に造船所に行ったのですが、旧ソ連崩壊後のことであり、周囲に明かりはなく暗闇、もっとびっくりしたのは空母や軍艦が売りに出されている(on sale)状態だったことです。一つの政治体制の崩壊を目の当たりにした瞬間でした。もう一つはイスラエルで、敬虔なユダヤ教徒が祈りを捧げている、エルサレムの嘆きの壁からほど遠くないところでは、アラブの人たちが盛んに物を売っている、さらにその先にはキリスト教徒地区があるところで、3000年に及ぶ歴史、アジアとヨーロッパを結ぶ地理という、2つの背景をこれまた体感し、観光旅行ではなかなかできない経験、日本だけではできない体験をさせてもらいました。現在は、就職に際しても地元志向が強いとも聞きますが、なじみのない国や地方で働いたり生活すること自体が得難い経験です。そうした経験の蓄積も、さきほどの、数字にはできないが価値あるものの一つではないでしょうか。物流企業は、国内各地、海外にも幅広く拠点を構え、活躍の場が広い会社がたくさんあります。ぜひ、会社を経験の場として使ってもらいたいですね。また、そうした経験があれば、日本や、自分のなじみ深い土地を外から、客観的に見て、その良さを改めて実感することができます。

◆外からの目や、客観的な見方を意識されているということでしょうか。

仕事を進める上で、それは非常に重視しています。例えばあるプロジェクトを進めるとして、どうしても目の前の課題や、日々のトラブルに目を奪われがちですが、常にその最終ゴールを客観的に思い描いておけば、軽重を付けた冷静な判断を下すことができます。さらには自分、自社だけ(in house)で全てを判断するのではなく、外部、例えばコンサル会社等の意見を聞いてみれば、見えていない新たな気づきを得ることができます。皆さんの会社でも、普段は意識していないが、客観的に見るとどうしてこういうことをやっているのか、おかしな部分はないでしょうか。当社でも、そうした失敗がなかったとは言えませんので、一つは、近年は中途採用を増やしています。敢えて均質ではない、様々な背景を持つ社員に働いてもらうことにより、仕事、プロジェクトを進める上で大切な、人の配材や性格の多様性を持つことができます。多様な人材の衆知を結集すれば、よどんだ慣習を打破して改革を成し遂げることが可能になります。

◆最後は、やはり人に尽きるということでしょうか。

さきほど、私の入社動機は「人」であったことをお話しました。当社のみならず物流会社の多くは、現場が実務をこなし、多数のグループ企業に支えられています。それらは人によって成り立っています。人に関することでは苦勞もありますが、誠実な、意識の高い人々に支えられている物流業界に奉職していることを、私は誇りに感じています。



## 令和8年 物流連 新春シンポジウム

物流連  
新春  
シンポジウム

# 「物流人材の確保・育成」を開催

1月29日(木)、第一ホテル東京(東京都港区)で、令和8年物流連新春シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、物流業界における大きなテーマの一つである物流人材の育成と確保を題材に、国土交通省幹部、就職支援会社役員、経営コンサルタントが登壇し、現状と将来に向けた課題について議論することを目的としたものです。

当日は国土交通省大臣官房総括審議官の岡野まさ子氏、株式会社インディードリクルートパートナーズ執行役員の近藤裕氏、株式会社イー・ロジット取締役会長兼チーフコンサルタントの角井亮一氏による講演、流通経済大学教授の矢野裕児氏がコーディネーターとして加わっての4氏によるパネルディスカッションを行いました。

※シンポジウムはYouTubeに公開しており、物流連ホームページからご視聴いただけます。

### シンポジウムの概要

### テーマ：物流人材の確保・育成



講演①：最近の物流政策全般について

国土交通省 大臣官房総括審議官 岡野 まさ子氏



講演②：「新卒採用or 中途採用」の二元論を超えた物流業界ならではの採用アプローチの未来

株式会社インディードリクルートパートナーズ 執行役員(エージェントサービス事業) 近藤 裕氏



講演③：なぜ、チャンスが多い物流に人材が来ないのか？

株式会社イー・ロジット 取締役会長兼チーフコンサルタント 角井 亮一氏



パネルディスカッション：「高度物流人材、CLO、CSCOを担える人材の確保」

コーディネーター：流通経済大学教授 矢野 裕児氏

パネラー：岡野 まさ子氏、近藤 裕氏、角井 亮一氏

# 最近の物流政策全般について

国土交通省 大臣官房総括審議官 岡野 まさ子氏



2023年3月、政府は物流革新に関する関係閣僚会議を設置、6月に政策パッケージを策定、2024年5月には改正物流法を交付しました。2025年4月から一部施行が開始し、本年4月からは全面施行の予定になっています。物流効率化およびロジスティクス・サプライチェーン全体の最適化に係る計画・実行の統括管理を担うCLO、CSCOの選任も、本年4月に始まります。

## ◆今後の方向性

2030年度に向け物流革新の集中改革期間と位置づけ、それに向けた次期物流施策大綱については次の5つの柱をベースに現在有識者会議で議論しています。

### ①物流の効率化

モーダルシフトについて、貨物鉄道の輸送力強化、船舶の大型化、フェリー・RORO船のターミナル機能強化を進めていく方向。新モーダルシフトとして、ダブル連結トラックや自動運転トラック、航空貨物輸送についても促進。ドライバーの負担軽減と運行効率の向上の両立が見込める中継輸送拠点の整備を促進。税制の特例措置は来年度から認められる方向。

### ②商慣行の見直しや荷主、消費者の行動変容、産業構造の転換

ラストマイルに関する検討会の結果を反映させ、宅配便の多様な受け取り方法なども盛り込む方向。

### ③物流人材の地位・能力の向上と労働環境の改善

多くの分野で担い手確保に向けた取り組みを進めることを検討。マネジメントクラスの人材育成は、東京大学、流通経済大学でサプライチェーンマネジメントに関するリカレント教育プログラムを設置。

### ④物流の標準化と物流DX・GXの推進

### ⑤サプライチェーンの高度化・強靱化

成田空港の国際ハブ空港としての地位を確立するための取り組みを検討。また、国際コンテナ戦略港湾政策の推進、海運産業群の健全な循環による関係諸国との連携強化も検討会で議論。

国土交通省としましては、近年の社会的な関心を追い風として、物流が持続可能で魅力的な産業となるように適切な政策立案とその実行に努めてまいりたいと思っています。

## 2030年度に向けた総合物流施策大綱に関する検討会 提言(案)概要

(調整中)

### 我が国の社会経済全体が直面する現状・課題

- 本格化する人口減少や担い手不足
- 社会全体のデジタル化やイノベーション
- 気候変動問題やカーボンニュートラル
- 国際競争力の低下や不確実性が高まる国際情勢
- 大規模自然災害やインフラの老朽化

### 物流を取り巻く現状・課題

- 「物流革新に向けた政策パッケージ」等に基づく官民での取組の成果により、2024年度の約14%の輸送力不足を概ね解消し、2024年度を越えても物流の機能を維持
- 一方で、2030年度までの物流革新の「集中改革期間」において、今後、担い手不足が深刻化する中で、必要な物流の機能を維持するための施策の具体化・深度化が必要

### 今後の物流政策の方向性

- 2030年度までの物流革新の「集中改革期間」において、従来にない対策を抜本的かつ計画的に講じることにより、**将来にわたって物流の持続可能性を確保**していくとともに、**我が国の成長エンジンや公共性の高いサービスとしての物流のポテンシャルを最大限に引き出す**ことが求められる。
- こうした認識の下、次期「物流大綱」が目指すべき今後の物流政策を、下記の5つの観点に分類し、国のみならず、物流事業者、発着荷主、一般消費者をはじめとした**物流に携わるすべての関係者が一致団結**して、各種の取組を推進。

- 1 **サービスの供給制約に対応するための徹底的な物流効率化**
- 2 **物流全体の最適化に向けた商慣行の見直しや荷主・消費者の行動変容、産業構造の転換**
- 3 **持続可能な物流サービスの提供に向けた物流人材の地位・能力の向上と労働環境の改善**
- 4 **物流に携わる多様な関係者の連携・協力による物流標準化と物流DX・GXの推進**
- 5 **厳しさを増す国際情勢や自然災害等に対応したサプライチェーンの高度化・強靱化**

# 「新卒採用 or 中途採用」の二元論を超えた 物流業界ならではの採用アプローチの未来

株式会社インディードリクルートパートナーズ 執行役員(エージェントサービス事業) 近藤 裕氏



労働供給不足が見込まれている状況下、有効求人倍率が上がり続けており、新卒と中途採用とも求人を出すだけでは採用できないという状態です。採用難易度が高い状態は今後も続く予測されており、全産業において、採用は企業におけるアジェンダの上位に位置しています。運輸業においては、新卒の3人に1人が3年以内に離職しており、3年3割といった言葉もあります。ドライバーはもちろんマネジメントゾーンについても、新卒、キャリア採用とも難しい状況です。

近年、人的資本経営の実現に向けて求められているのは、採用手法のアップデートとDXによる生産性向上です。本日は採用成功を実現する会社の取り組み事例(物流業界2社、他業界2社)をご紹介します。

## ①大手メーカー物流A社 第二新卒採用の取り組み

社会人経験3～4年の第二新卒と呼ばれる方を採用する、昔からある手法です。1社目のミスマッチはある程度あり得ることなので一定のマーケットがあります。この事例では入社タイミングを4月と9月の2回に増やし受け入れ体制を拡充したことで、採用の充足度が向上しました。

## ②大手陸運B社 地域別採用体制

この事例では本社と地域が連携し、地域特性に応じた採用戦略を立案しました。手間はかかりますが、地域ごとに戦略を確立すればその後の採用はスムーズですし、何より人を大事にする会社だということが伝わり、ブランディングにもつながります。

## ③IT業界 外部協業を通じたリスキリング採用

採用の際に経験者を望まれる企業は多いと思いますが、私たちの教育パートナー企業との提携により、未経験者を採用し入社前に育成を行った事例で、人材開発支援助成金を活用していただく少々特殊なスキームです。社内に育成のパワーがないような際に、コストと時間の部分を外部に頼ることで採用の可能性を上げる取り組みです。

## ④アルムナイ採用

結婚や育児などでやむを得ず辞めた方を再雇用するカムバック採用と近いのですが、アルムナイ採用は、退職者および内定辞退者を採用する方法です。一度は退職していますが、それでもまた働きたいという方は、企業文化への理解・適応力がある方が多く即戦力になるため、この方法を取り入れる企業も増えています。

## 新規学卒者の離職率について

- 運輸業において、**新卒入社者の3人に1人が3年以内の離職。**
- 「座して待つ」と維持に手一杯となり、人材活躍・輩出が停滞、労働供給制約が一層加速。

新規学卒者 3年以内離職者数 (運輸業 令和4年3月卒)

就職者数 (令和7年6月集計)	離職者数		
	①3年目までの離職者数	② ①のうち2年目までの離職者数	③ ②のうち1年目までの離職者数
10,575	3,328	2,454	1,296

出典：厚生労働省 新規大学卒業就職者の産業別離職状況 <https://www.mhlw.go.jp/content/11800000/001319024.pdf>

「新規学卒者数の頭打ち」と「若手離職」のダブルパンチにより、  
新卒入社者による組織拡充の難易度が格段に上がっている。

中途採用へのシフトによる補完は可能か？

# 「なぜ、チャンスが多い物流に 人材が来ないのか？」

株式会社イー・ロジット 取締役会長兼チーフコンサルタント 角井 亮一氏



物流は最前線であり、ピラミッドの頂点との思いで物流の重要性を広めてきましたが、近年、その構造は変わってきています。物流現場もこれまでは汗をかいて働く場所と定義されていましたが、これからは無限のデータが存在しており、不可能なものを可視化できる場所と再定義する必要があります。利用されていない無数のデータを加工させることで、物流は大きな変革ができると思っています。

そして変革のために必要なのが、理系人材の採用です。

また、かつては現場で仕事を覚えてから、管理担当、戦略担当とキャリアを積んでいくことが多かったと思いますが、物理的にも制度的にもそうしたキャリアアップは難しくなっており、キャリア自体を分割しなければならなくなっています。現場、管理、戦略とステップする従来のキャリアパスではなく、管理や戦略担当に直接入社し、経営直結の分析官として活躍する人たちも増えてくると思います。

15年前にアメリカで目にした物流系の雑誌に「物流部長の年収は2,500万円では少ない」と書いてありました。数億円のコスト削減を実現するなら年収2,500万円も安い投資だということです。アメリカが正しいというわけではありませんが、そうした報酬で物流戦略担当を採用されている企業もありますし、今後の物流業界のためには、そうしたチャレ

ンジングなことが必要だと思っています。

物流の変革に向けてのまとめが以下の3点になります。

## ①「作業」から「物流思考へ」

「物流思考」にも「戦略物流思考」と「物流思考」があり、「戦略物流思考」は全体最適で、「物流思考」というものはサプライチェーンの観点から考えることですが、どちらも大きく変えなくてはいけない状況にきています。

## ②理系人材が入社する環境づくり

理系とは理系専攻という意味ではなく、数字やグラフを的確に把握し、ロジカルに考えられる人材のことです。そうした人々にできるだけ入社してもらえ環境づくりが必要だと考えます。

## ③「投資」としての報酬

費用対効果が生み出せるポジションとして、報酬を決めていくべきだと思います。

物流業界の価値向上のため、私自身も物流の認知向上をパーソナルミッションとして、今後も取り組んでいきたいと考えています。

## 3つのキャリアパス：選ばれる業界への構造改革



## 「高度物流人材、CLO、CSCOを担える人材の確保」

コーディネーター：流通経済大学教授 矢野 裕児氏

パネラー：岡野 まさ子氏、近藤 裕氏、角井 亮一氏



——高度物流人材、マネジメントや戦略を担える人材とは。

**角井** データ分析する際に自分自身でデータ分析する必要はなく、AIなどツールを活用したりして、ロジカルな思考でちゃんと理解しながらできる人材だと思います。

**矢野** 私が関わっている国交省の高度物流人材の委員会では、高度物流人材として、デジタル化に対応しデータドリブンで思考する能力、サプライチェーン全体を俯瞰してマネジメントをする能力、そして社会変化に対応できる能力、この3つを挙げています。最近、理系のエンジニア分野はAIにある程度変わっているところがあるけれども、AIを使いこなしながら、データを見る力や判断する力、そして結果を説明する力がますます要求されてきており、理系と文系を融合させたような人材が求められていると思います。

——今後の人材確保について。

**近藤** 各社で課題は違うと思いますが、1番大きいのは採用するターゲットの方の大きな変化です。企業側が個人を選ぶという時代が長くありましたが、今もそういう側面はありつつも、個人が企業を選ぶ形になっていますので、選ぶ側に立った採用プロセスになっていないかを見直して、会社の課題に応じた採用手法を選んでいただきたいと思います。また、入社後のキャリア形成の部分が見える化していることが非常に重要です。

——今後の物流業界の姿について。

**角井** 物流の重要性を世に伝えるというパーソナルミッションにおいて、物流価値向上と地位向上は不可欠であり、物流の価値を上げていく作業は必要だと思っています。従って、地位や価値の高さが認められる姿が理想の未来像であり、物流会社や荷主企業の物流部門に入社したいという方が増えていく、そういう未来を期待しています。

**近藤** 物流業界はいま変わり目にあり、可能性をとっても秘めた業界だと感じています。そうした過渡期にはヘッドハンティングなども行い、優秀な人材を採用できるよう業界全体で動いたほうがいいと思います。業界の外から入ってくる人と、もともと中にいる人たちが融合して物流の市場価値が上がり、物流業界で頑張ろうとする人が育っていくことが理想だと思います。

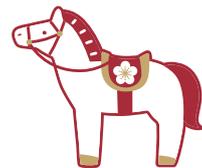
**岡野** 理系的な考え方ができる人が必要だとお聞きして、荷主企業であれば物流部門に入れば知的好奇心を満たす仕事ができ、CLOへのキャリアアップパスも描けるといいのかなと思いました。物流事業者についても、そういったキャリアパスを描けることが若い人にとって魅力的なのかとあらためて感じました。また、入社された方のエンゲージメント向上も大きな課題かと思っています。リカレント教育については、矢野先生にご協力いただきながら私どももしっかり後押しするようにしていきたいと考えています。

**矢野** 先般開催された物流学会では、物流業界は残念ながらエンゲージメントについて意識している企業が少なく指摘されています。いずれにしても非常に課題が多く、また物流業界は今までのやりかたを踏襲してきた傾向がありますので、人材確保、育成については他業界のことも参考にしながら方法を大きく変えていく必要があると思います。



パネルディスカッションの様子

# 令和8年 新年賀詞交換会を開催



1月29日(木)、第一ホテル東京(東京都港区)において、令和8年新年賀詞交換会を開催しました。

会場では、酒井庸行国土交通副大臣をはじめ、多数の国土交通省関係者、物流連会員の皆様にお集まりいただきました。



挨拶する長澤会長



挨拶する酒井副大臣



乾杯の首頭をとる真貝副会長



会の冒頭、主催者を代表して長澤仁志会長から、「本年4月には物流改正法が本格施行となり、その先にはトラック適正化二法の施行が控えています。また、中継輸送の促進を目的としたさらなる法改正が予定されるなど、物流事業の効率化に向けた環境が整備されることを大変意義深く受け止めています。物流連では、年明けからSNS、Xを活用した広報活動を開始しました。物流という文字から抱かれるイメージを刷新し、物流の広い世界、変わりゆく現場などを紹介したいと考えています」と挨拶がありました。

続いて来賓代表として酒井庸行国土交通副大臣から「国土交通省では、物流の効率化に向けた取り組みの強化を図っています。本年は物流革新に向けた重要な1年です。政府一丸となって全力で取り組んでまいりますので、引き続きのご指導をお願いします」と挨拶があったのち、真貝康一副会長による音頭で乾杯し、懇親会に移りました。

# 将来を担う 人材に物流の バリュー 価値を伝える

## 日本の「運ぶ」を、 創造する。

JAFT



日本物流団体連合会

陸・海・空・倉庫。日本の物流の「仕組み」を考え、より良くする団体です。

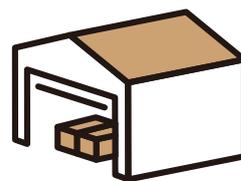
# 「物流業界合同説明会」を開催

## 全36社が参画、290名の学生が参加

令和7年12月から令和8年2月にかけて、令和7年度「物流業界合同説明会」を開催いたしました。「物流2024年問題」をはじめとする社会課題が注目される中、業界の重要性と先進性を正しく伝え、次世代を担う学生と企業の出会いの場を創出。計4日程で延べ36社の会員企業と290名の学生が集まり、熱気あふれる交流の場となりました。

### 開催概要と実績

オンライン	12月13日(土)、1月9日(金)
東京会場	2月7日(土) 浜松町
大阪会場	2月14日(土) 梅田
参加社数	全36社(会員企業)
参加学生数	合計290名(内訳：オンライン141名、東京98名、大阪51名)



### 実施プログラム：学生の興味を惹きつける体験型企画

業界展望講演	「物流業界の現状と未来」をテーマに、最新トレンドを解説。
1分間アピールタイム	短時間で出展企業の特徴を把握できる、本イベントの名物企画。
人事担当トークセッション	就活の悩みから業界の裏側まで語り合うリアルな対話。
カプセルトイ企画	3社以上のブース訪問を促す仕組みとして、企業グッズが当たる抽選を実施。

### 参加学生の反応

アンケートでは、「物流といっても多種多様な業種があることを知り、視野が広がった」「担当者の話が具体的で、働くイメージが湧いた」といった声が寄せられ、業界に対する理解度・志望度の向上がうかがえました。

## 今後の展望

物流連では、今後も物流を将来の職業の選択肢として捉えていただけるよう、物流業界の価値（バリュー）の発信と人材獲得のための取り組みを継続し、持続可能な物流の実現に寄与してまいります。

## 東京会場



受付



講演会

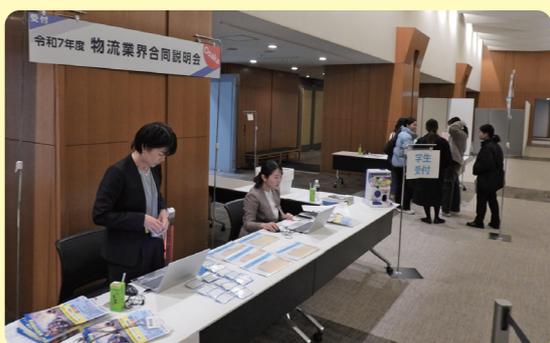


企業ブース



各社1分間アピールタイム

## 大阪会場



受付



講演会



企業ブース



トークセッション

# 障がい者活躍推進ワーキングチーム 最終報告書を発行、公表

「物流業界における障がい者活躍推進に向けた検討 報告書」を公表、販売開始

## さらなる障がい者活躍推進のために 報告書を公表、販売開始

経営効率化委員会のもとに令和6年9月に設置された「障がい者活躍推進ワーキングチーム（座長：東京女子大学 二村真理子教授）」において、約1年間にわたって実施してきた調査検討の結果を最終報告書としてとりまとめ、令和7年12月に発行し、公表しました。

本報告書は、今後の物流業界におけるさらなる障がい者活躍推進のために活用していただけるよう、物流連会員各社へ配布すると同時に一般販売も開始いたしました。

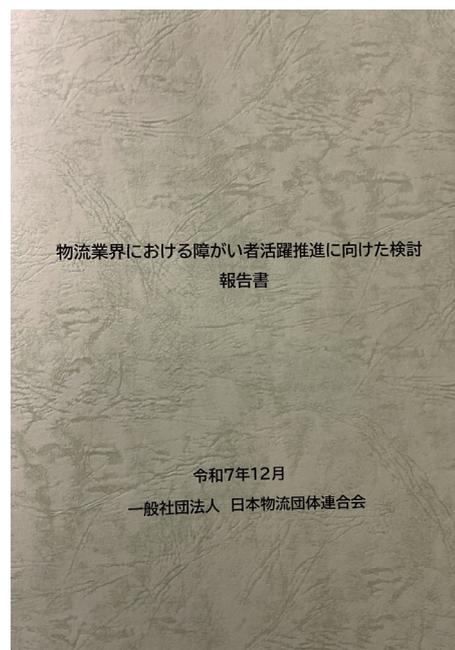
本ワーキングチームは、物流業界の人材不足等の課題解決へ向けたダイバーシティ推進の一環として、また企業の社会的責任（CSR）を果たすうえでも今後障がい者の活躍推進がますます望まれることから、物流業界における障がい者雇用の現状と課題を調査し、その活躍推進について検討する目的で設置され、物流連会員企業・団体15社から16名の方が参加して調査検討を行ってまいりました。

## 他業種の好事例なども紹介

本報告書は、物流連会員に対して実施した各種のアンケート調査やヒアリング調査を通じて明らかになった会員各社のさまざまな課題、あるいは先進的な取り組みの事例等を取り上げています。ま

た、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構（JEED）による講演会において紹介された他業界での好事例なども含まれており、今後さらなる障がい者活躍推進を図っていかれる皆様にとって参考となるよう配慮しましたので、ダイバーシティ経営を推進される経営者の方々にもぜひご一読いただければ幸いです。

物流連では今後もさまざまな活動を通じ、ダイバーシティや CSR 推進の取り組みを進めてまいります。



報告書表紙



# 新たに「日本物流大賞」 を創設しました

## ～第1回表彰に向けて～

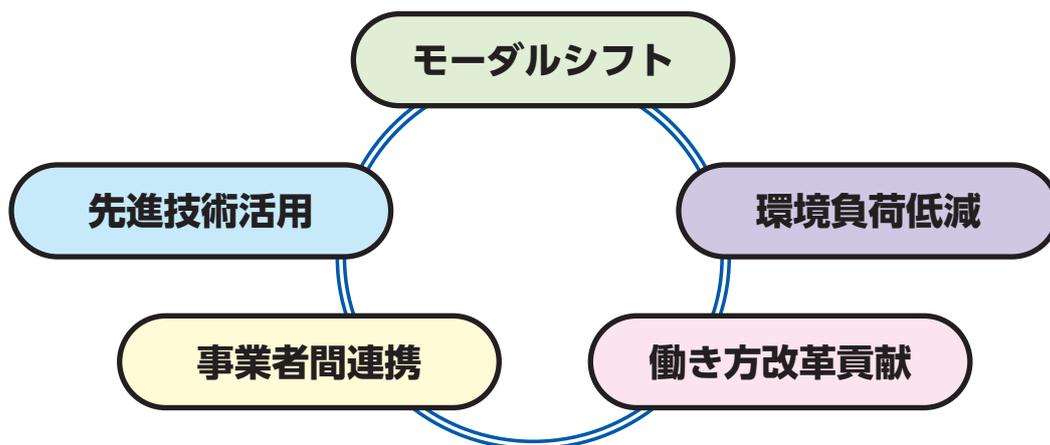
物流連では、これまで「物流環境大賞」および「モーダルシフト優良事業者大賞表彰」の2つの制度により、物流分野における優れた取り組みを顕彰してまいりました。このたび、これらの表彰制度を発展的に統合・再編し、新たに「日本物流大賞」を創設いたしました。本賞は、「環境負荷の低減」や「モーダルシフトの推進」といった従来の評価軸をさらに発展・拡張し、物流の生産性向上や労働負担軽減やカーボンニュートラルの実現など、持続可能な物流の実現を目指す取り組みを広く対象としています。物流事業者・荷主事業者に限らず、こうした取り組みに寄与したあらゆる事業者が応募可能で、単独・共同いずれの形でもご応募いただける賞です。

第1回の募集は令和8年3月13日をもって締め切らせていただきました。11月には、5回にわたりオンライン事前説明会を開催し、全国から36名の方にご参加いただきました。多くの皆様よりご応募を賜り、心より御礼申し上げます。

今後は、4月15日（水）に選考委員会を開催し、厳正な審査のうえで各賞を決定いたします。また、6月29日（月）に表彰式を開催する予定です。受賞者の発表は5月初旬～中旬を目途に行う予定ですが、改めてご案内申し上げます。

物流業界では、「労働力不足」や「2050年カーボンニュートラルの実現」など、喫緊の課題に対応するための変革が求められています。本賞が、そうした取り組みの一助となり、業界全体の意識向上と発展につながることを目指していきます。

### 日本物流大賞表彰 評価基準



選考委員会 令和8年4月15日（水）

授与式 令和8年6月29日（月）（詳細は後日発表）

問い合わせ先

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-3 全日通霞が関ビル 5階  
（一社）日本物流団体連合会 日本物流大賞事務局 島 電話：03-3593-0139



みんなで地球にやさしい物流を

グリーン物流パートナーシップ

令和7年度

## グリーン物流パートナーシップ会議

## 物流パートナーシップ優良事業者表彰を実施

国土交通省、経済産業省、(公社)日本ロジスティクスシステム協会、ならびに(一社)日本物流団体連合会は、(一社)日本経済団体連合会の後援のもと、12月23日に砂防会館別館において、令和7年度グリーン物流パートナーシップ会議<sup>\*</sup> 物流パートナーシップ優良事業者表彰を実施し、優良事業者表彰、受賞事業者による事例紹介ならびに有識者からの講評が行われました。

<sup>\*</sup>グリーン物流パートナーシップ会議：物流分野のCO<sub>2</sub>排出量削減に向け荷主と物流事業者が連携した取り組みを支援する場として発足、優良取り組みを行った事業者を表彰しています。

## 国土交通大臣表彰

## 事業名「北海道における宅配拠点と物流DXを活用したドラッグストア店舗納品の効率化」

## 受賞事業者

- ◆佐川急便株式会社
- ◆株式会社サッポロドラッグストア
- ◆株式会社PALTAC

## 事業の概要

佐川急便の宅配拠点をデポ活用した遠隔地店舗配送の効率化、PALTAC拠点の稼働時間見直しや車庫活用・動態管理端末を使用した運行の見える化による適正な労務管理、さらにサッポロドラッグストア店舗における受入時間や車格の調整による店舗配送の効率改善の取り組みとなります。



# 経済産業大臣表彰

## 事業名「メーカーと卸売業のコラボレーションと段積みマテハンを活用したチルド配送効率化」

### 受賞事業者

- ◆江崎グリコ株式会社
- ◆株式会社サンライズジャパンホールディングス
- ◆株式会社サンライズグランドフーズ
- ◆エージーエス株式会社
- ◆鴻池運輸株式会社
- ◆岐阜プラスチック工業株式会社

### 事業の概要

ドライバー不足などの社会課題や、温室効果ガス削減といった地球環境課題の解決に寄与する取り組みを目的に、江崎グリコ(株)はお得意先である卸売業(株)サンライズグランドフーズと連携し、段積みカーゴを活用した新たな発想によるチルド物流のシェアリングを静岡県で展開しました。これにより、輸送効率の向上や環境負荷の低減といった面で、顕著な成果を上げた取り組みとなります。



## 国土交通省

### 物流DX・標準化表彰

レンタルパレット導入による効率的な医薬品物流とトレーサビリティの実現

- ◆三甲パレットレンタル株式会社 他12社

### 強靱・持続可能表彰

条件不利地域の物流課題を解決する共同配送の取り組み

- ◆株式会社NEXT DELIVERY 他3社

### グリーン物流パートナーシップ会議特別賞

ビジネス(商)と環境(環)を両立させる持続可能な物流(物)

- ◆北海道ロジサービス株式会社 他5社

## 経済産業省

### 物流DX・標準化表彰

24年問題を契機とした物流課題解決に向けた多面的な取り組み施策

- ◆株式会社セブン・イレブン・ジャパン 他1社

### 物流構造改革表彰

リレー型コネクト共同輸送 (複数企業×多拠点×中継・連携)の新標準

- ◆ロート製薬株式会社 他3社

### 強靱・持続可能表彰

RORO船を活用したモーダルシフトによる持続可能な地方店舗配送の実現

- ◆イオン北海道株式会社 他1社

### グリーン物流パートナーシップ会議特別賞

テクノビーム輸送におけるモーダルシフトの取り組み

- ◆パナソニックアーキスケルトンデザイン株式会社 他4社

# 東京九州フェリー「それいゆ」船内を見学

## 令和7年度第1回カーボンニュートラル情報交換会を実施

1月13日(火)、物流分野におけるモーダルシフトの推進やフェリー輸送の現場理解を目的として、東京九州フェリー株式会社が運航する「それいゆ」の見学会を開催し、会員企業・団体から21名が参加しました。

### 「それいゆ」の見学会と意見交換を実施

当日は、横須賀港停泊中の「それいゆ」に乗船。船長や航海士が操船を行う「ブリッジ」にて、岡本キャプテンより、航行に関わる各種設備や、甲板部・機関部の業務内容について丁寧なご説明をいただきました。特に、航海中の他船との接触を未然に防ぐため、目視に加え、レーダーやAIS(船舶自動識別装置)を活用しながら、約20km先までの船舶動向を常に監視して運航しているというお話は、非常に神経を使う業務であることが伝わり、参加者からは驚きの声が上がりました。

「それいゆ」は、トラック154台、乗用車30台の車両積載が可能で、見学当日も満車予約など、高い輸送需要を実感する機会となりました。運賃は車体の全長に応じて設定されており、トレーラー単体での積載による効率的な運用が可能です。また、フェリー輸送中はドライバーが休息を取れるため、労働時間の制約を受けることなく、下船後のさらなる運行が可能となる点も、陸上輸送との違いとして注目されました。

さらに、フェリーは陸上輸送よりも振動が少なく、精密機械などの輸送に適しています。海上荒天の際はスタビライザーを使用することで船の揺れを軽減し、安定性を高めることで貨物の損傷防止や船酔いの軽減に貢献。冷凍車用電源も多数装備されていること、旅客と貨物の両方を取り扱いながらも、売り上げの大半を貨物が占めていることなど、フェリー輸送の実態について多角的な理解が深まりました。

船内見学では、ドライバーサロンや露天風呂、バーベキューガーデン、スクリーンルーム、レストランなど、充実した設備をご案内いただきました。どの施設も清潔感があり、旅の高揚感を高める工夫が随所に見られました。テラス付きのデラックスルームや、ペットと宿泊可能な「ステートウイズペット」など、多様な客室タイプも人気を集めており、予約は2か月前からがおすすめとのことです。

見学後には質疑応答の時間が設けられ、参加者からは多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。フェリー輸送の可能性や今後の活用に関する議論も交わされ、会場は大いに盛り上がりました。

物流連では、今後もモーダルシフトや労働環境改善に資する現場の取り組みを積極的に学び、会員企業への情報提供を通じて、持続可能な物流の実現に貢献してまいります。



# 「外航海運の脱炭素化に向けた取組み」をテーマに講演会を開催

## 令和7年度第2回カーボンニュートラル情報交換会を実施

2月12日(木)、千代田区の全日通霞が関ビル8階会議室にて、第2回カーボンニュートラル情報交換会を実施しました。

本会は、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた国の方針や、物流業界を含む産業界の取組みについて、有識者による講演と参加者同士の意見交換を通じて理解を深めることを目的としています。

### 海外海運分野における脱炭素化の動向について幅広い視点から解説

今回は、公益財団法人 日本海事センター 企画研究部 上席研究員・森本清二郎氏を講師に迎え、「外航海運における脱炭素化に向けた取組み」をテーマに講演会を開催し、対面・オンラインで29名が参加しました。森本氏からは、外航海運分野における脱炭素化の動向について国際海事機関(IMO)における国際的な規制の枠組みや、船舶燃料の転換に伴う課題、そして国際的な脱炭素化の潮流など幅広い視点から解説がありました。

EUにおける排出量取引制度(EU ETS)や燃料の生産から消費までのライフサイクルで評価されるGHG強度の規制といった先進的な取組み、さらにIMOが検討を進める中期対策「Net-Zero Framework(NZF)」の制度設計について、詳しい説明がなされ、バイオ燃料やアンモニアなどの代替燃料については、海運以外の他セクターとの競争やコ

スト面の課題にも触れ、具体的なデータを交えて解説が行われました。加えて、EU・米国・中国・日本など主要国・地域における政策や規制の動向も紹介され、国際的な視野から今後の脱炭素化の展望が示されるなど、参加者の理解を一層深める内容となりました。

### Scope3をテーマに情報交換会を開催

講演後の情報交換会では、「アメリカやEUの動向を踏まえ、将来的に日本が直面するScope 3(特に輸送分野の排出量の削減)の課題」をテーマに、参加者同士が意見を交わしました。議論の中では、現在、多くの荷主企業がまずScope 1・2の排出削減に注力しており、Scope3、特に輸送由来の排出削減には十分なリソースが割かれていないという意見があり、その背景には、Scope 3排出量の算定方法が未整備であり、可視化が難しいという課題があるとの指摘がありました。

一方で、物流業界は荷主企業のScope3における脱炭素戦略の中核を担う存在であり、今後の脱炭素社会の実現に向けて重要な役割を果たすことが期待されるとの認識も示されました。また、EUのように規制が導入されれば、国内の取組みも加速する可能性があるとの意見もあり、誰がその「旗振り役」となるのかという点についても、規制やインセンティブの必要性を含めて、今後の論点として意見が交わされました。

物流連では、今後もこうした情報共有の場を通じて、物流業界全体でのカーボンニュートラル実現に向けた取組みを推進してまいります。



講師の森本清二郎氏



講演会の様子



# 会員企業をたずねる

## 女性の力、女性の声

このコーナーは、会員企業をたずね、物流業界で働く女性社員に、業務内容や職場の取り組み、個人の抱負などを語ってもらうコーナーです。



### 第47回

## 琉球物流株式会社

倉庫部 倉庫第1課 <sup>タマシロ</sup> 玉城 <sup>アヤネ</sup> 彩音さん(右)

第一営業部 到着課 <sup>アラカキ</sup> 新垣 <sup>ルカ</sup> 瑠花さん(中)

第一営業部 低温センター <sup>ウエカメ</sup> 上亀 <sup>ハルカ</sup> 遥さん(左)

### PROFILE

玉城 彩音さん

2023年入社。倉庫部倉庫第1課(現職)に配属。電材の配送手配、情報機器の管理業務等を担当している。糸満市出身。

新垣 瑠花さん

2024年入社。第一営業部到着課(現職)に配属。大阪発の貨物の配送手配、顧客対応、引越業務等を担当している。浦添市出身。

上亀 遥さん

2025年入社。第一営業部低温センター(現職)に配属。冷凍食品の保管、配送手配等を担当している。宜野湾市出身。

## 故郷・沖縄の生活を支える仕事を志望

——入社動機と入社当時について教えてください。

**玉城** 物流が止まると生活に影響が出てしまう沖縄に生まれ、インフラに関わる仕事に就けば地元で貢献できると考え、ポリテク(沖縄職業能力開発大学校)で物流について学びました。その際に物流が想像以上に幅広い業界であることを知り、多様な事業を展開している当社なら自分の可能性を広げられると思ったのが志望動機ですが、研修を通じて物流業界のスケールの大きさをあらためて感じました。

**新垣** 私は大学で沖縄の文化について専攻したのですが、コロナで通学が制限され、空いた時間を利用して韓国に短期留学したことがあります。沖縄以外の人と知り合った現地での経験がとても楽しく、沖縄と他の地域をつなぐことができる物流業界に就きたいと思いました。当社を選んだのは、世界とつながる仕事ができること以外に、大好きな沖縄で働きたいこと、大学で学んだ文化と関連が深い美術品輸送を行っていることが大きな理由です。私も研修を通じてさまざまな業界、国内外の地域と関わりが持てる会社であることを実感しました。

**上亀** 私も沖縄で生まれ育っているので、幼いころから物流は生活と密着した身近な存在だと感じていました。吹奏楽で使う楽器を海外にオーダーした際に物流や貿易に興味を持ち、海外と関わりのある仕事に就きたいと思ったのがそもそものきっかけです。高校卒業後は物流の専門学校に通い、県内の大手物流企業である当社を志望しました。1年目なのでまだまだ勉強中ですが、日々、当社の仕事の幅広さ、奥深さを実感しています。

——現在の担当業務について教えてください。

**玉城** 倉庫部では、食品、飲料、嗜好品、電材などさまざまな貨物の荷卸し、仕分け、梱包、流通加工などを行っています。私は倉庫第1課で、電材の在庫管理および配送手配、メーカーから依頼される産業廃棄物の受付・保管・引き渡し等管理業務を、オペレーターとの二人体制で担当しています。普段はお客対応や配送手配などのデスクワークが中心ですが、倉庫の保管効率向上を目的としたレイアウト変更などにも携わっています。

**新垣** 到着課は文字通り県外から沖縄に到着する国内貨物を扱っており、配送手配が主な業務になります。私は大阪エリアを担当していますが、当課では誰もが全エリアを担当できるようにジョブローテーションを行っており、担当以外のエリアを扱うこともあります。また、引越業務も担当しています。作業スタッフや発地の担当の方と連携しながら、お客様ごとに最適な引越サービスをご提供できるよう取り組んでいます。

**上亀** 低温センターはマイナス25℃の倉庫を担当している部署です。私は冷凍食品を受け持っており、東京・大阪・博多から海上輸送される冷凍食品の入庫から配送までの一連の業務を担当しています。当センターも会社の方針の下、メンバー全員がセンター内の業務を回せるようジョブローテーションに取り組んでいます。

——仕事に臨む際、心がけていることなどを教えてください。

**玉城** 倉庫ではオペレーターとのコミュニケーションが何よりも重要です。特に私は二人三脚で業務にあたっているため、些細なことでも情報共有するよう心がけています。また、当社では「沖縄一安心安全な倉庫を目指す」との方針の下、安全に対する取り組みを推進しており、当社事業の要でもある倉庫では、2024年に現場のルールや基準を整備・徹底させるための向上プロジェクトがスタートしました。この取り組みにより、現場の意識は大きく変わってきたと感じています。私も2025年にプロジェクトに参加させていただきました。学ぶことが多く、大変貴重な経験となりました。

**新垣** 最も大切にしていることは、丁寧に仕事をすることです。当課の仕事は、ドライバーをはじめ当社グループや作業会社、また依頼元である日本通運など多くの人に関わっているため、業務の流れの中で滞りが生じないように、指示書の作成や伝言などは正確かつ丁寧にを行うよう心がけています。

**上亀** 常に気遣いを忘れず、現場第一を最優先に、皆さんにとって仕事がしやすい倉庫になるよう改



スイーツを満喫中！

旅行先で

### 玉城さんのON/OFF

善していきたいと考えています。私は当課の中でも一番年下なので、皆さんも気軽に声を掛けてください。一番下の立場を生かして皆さんから情報を収集し、センター全体がより良い方向に進むよう取り組んでいきたいです。

## 物流業界は中に入ってからが面白い

——仕事を通して苦労している点や課題に思っていることを教えてください。

**玉城** 場所が異なる倉庫が点在するため連携が取りづらい点があり、だからこそコミュニケーションが重要だと痛感しています。また、プロジェクトを通じて学んだことでもあるのですが、倉庫は他部署に比べ費用対効果など管理目線でのコスト意識が足りない点があると感じています。私自身の意識や知識も足りないので、勉強しなければと考えています。

**新垣** メインの担当を受け持つようになってから、現場の環境を整えることも私たちの仕事だと実感するようになりました。現場の声に耳を傾け、お客様や納品先などに改善策を提案しながら、少しでも改善につなげられるよう取り組んでいます。まだまだ微力ではありますが、今後も力を入れていきたいと思っています。

**上亀** 夏には外気との温度差が60℃にもなる冷凍倉庫では、体に負担が掛かるため長時間作業ができません。私たちも庫内作業が迅速に行えるようフォローに努めています。また、私自身は直接携わっていないのですが、倉庫の作業効率を向上させるためのプロジェクトがあり、上司や先輩たち

がロケーション変更などに取り組んでいます。パレットとパレットの間の隙間をなくすなどの工夫が面白く、興味を抱いています。

——仕事をする上で、どんなときにやりがいを感じますか。

**玉城** 仕事を通じて、物流は縁の下の力持ちという言葉を実感することがあります。エッセンシャルワーカーとして人々の生活を支える一翼を担っている感覚がやりがいにつながっています。

**新垣** 初めは分からなかったことが少しずつ理解できるようになり、失敗しながらも一人で最初から最後までできるようになったことが増えるたびにやりがいを感じます。また、改善をした結果、現場の皆さんから「良くなった」「助かった」といった声を掛けてもらったときはとてもうれしいです。

**上亀** 私が担当している商品が店舗の商品棚に並んでいるのを見とうれしくなります。買い物行ったときには冷凍食品のコーナーをついつい見でしまいます。

——オフタイムの過ごし方を教えてください。

**玉城** 休みは取りやすいので、プライベートも充実しています。好きな映画を観たり、遠方へ買い物に行ったりして楽しんでいます。定時が5時なので、終業後に友達と食事に行くこともあります。

**新垣** 社会人になってから「休む」ことを意識しています。予定を入れず一人で過ごす日を設け、それ以外の日は友人と遊びに行ったり、旅行に行ったりしています。また、最近、編み物が得意な叔母の影響を受けて編み物を始めました。ようやく人にあげられるものが作れるようになったので、叔母にプレゼントしようと思っています。

**上亀** 幼い頃から吹奏楽部でユーフォニアムを担当しており、現在は地域の楽団に所属しています。楽団ではジャズを目指しているのですが、ジャズに詳しくない私には練習がとても難しく、仕事しているときのほうが気楽だともあります(笑)。吹奏楽以外にも、旅行や好きなグループの推

新垣さんのON/OFF



琉装姿の新垣さん



韓国留学中の1枚



新垣さんの作品



し活、ドライブなど、スケジュールはいつもいっぱいです。

——今後の抱負を教えてください。

**玉城** 現在は一人体制なので、残念ながら指導のスキルが身に付いていません。指導によって自分自身のスキルアップにもつながると思いますので、指導する側を経験してみたいです。また、チーム制の仕事や人材関連にも興味があります。法律に関わる専門知識やスキルも必要なので難しいとは思いますが、だからこそチャレンジ精神が刺激されます。物流業界は入ってみたいと分からないことが多い業界です。これから物流業界に入りたという人がいたら、あらゆる可能性があることを教えてあげたいと思います。

**新垣** 性格的に知らないことに足踏みをしてしまう傾向があったのですが、これからは自分の力で何でも挑戦してみようと思っています。まずは当社業務全般に関われる到着課でスキルや知識を習得し、いずれは美術品をはじめ特殊輸送に携われたらうれしいです。

**上亀** 4月には新入社員が入り、初めての後輩ができます。先輩として意識を持ち、後輩を引っ張っていけるようになりたいと思っています。今後も物流業界を目指す人が増え、後輩がたくさんできるとうれしく思います。

——ありがとうございました。



上亀さんのON/OFF



忘年会で職場の皆さんと



大好きな四駆を運転する上亀さん



クリスマスの演奏会で

## 会社概要

### 琉球物流株式会社

本社所在地：沖縄県那覇市港町2-17-13  
設立：1950(昭和25)年11月16日  
代表者：代表取締役社長 金城 樹  
拠点数：10カ所  
従業員数：123人(2026年2月現在)

#### 【事業概要】

琉球物流は、国内・海外の拠点を結ぶ世界最大級の総合物流企業である日本通運との業務提携を通して、全国、海外への複合一貫輸送を行い、常に顧客のニーズに対応するサービスを提供している。主な業務は海上貨物輸送、特殊輸送、国際輸送・船舶代理店・引越・事務所移転・低温センター、倉庫等。日用品雑貨から建設資材、重量品・美術品、引越荷物等さまざまな貨物を取り扱っている。



本社社屋

# 物流業界の「未来」と「舞台裏」を可視化。 日本物流団体連合会、 公式X (旧Twitter) アカウントを開設



## 社会インフラを支える物流の社会的認知向上を目指す

物流業界の社会的認知向上を目的に、公式X (旧Twitter) アカウントを1月6日に開設いたしました。

### ■ 私たちが伝えたいこと

物流業界には、世の中にあまり知られていない「誇り」や「こだわり」がたくさんあります。「当たり前」に届く「舞台裏」で、誰が、どのような想いで動いているのか。教科書やニュースだけでは見えてこない物流の「未来」を、動画や写真と共にダイレクトに発信していきます。

### ■ 発信内容

- ・物流の「未来」：最新のテクノロジーなど、物流の「未来の姿」を提示
- ・物流の「舞台裏」：普段は見るできない倉庫・輸送の現場、業界のリアルな苦労と工夫
- ・お役立ち情報：物流を賢く利用するためのヒントや業界トピックスなど

### ■ アカウント概要

- ・アカウント名：日本物流団体連合会【公式】

- ・ユーザー名：@jalot\_official



#物流2024年問題

#物流の「舞台裏」

#物流の「未来」

#物流



お正月休みの間も、皆様の元へ荷物が届く。  
その裏には休まず動く物流のプロがいました。  
#物流連 はそんな「届く日常」を守り、より良い未来を作る団体です。  
本年も陸・海・空で日本の暮らしを全力で支えます！  
#物流 #社会インフラ



## 「数字でみる物流」2025～26年度版のご案内

### 概要

A6版 ポケットサイズ

2025年12月刊

定価1,210円(税込み・送料別)

- I.物流に関する経済の動向
- II.国内物流の動向
- III.国際物流の動向
- IV.輸送機関別輸送動向
- V.貨物流通施設の動向
- VI.貨物利用運送事業の動向
- VII.消費者物流の動向
- VIII.物流における環境に関する動向
- IX.物流企業対策
- その他参考資料



### 当連合会 最近の活動状況

#### 2025年

- 12月 13日 物流業界合同説明会(オンライン1回目)
- 12月 22日 大学に講師派遣(東京女子大学、テーマ:外航海運)
- 12月 23日 グリーン物流パートナーシップ会議表彰式

#### 2026年

- 1月 9日 物流業界合同説明会(オンライン2回目)
- 1月 13日 令和7年度 第1回カーボンニュートラル情報交換会
- 1月 27日 グリーン物流パートナーシップ運営会議
- 1月 29日 物流連新春シンポジウム・新年賀詞交換会、令和7年度 大学寄附講座終了(横浜国立大学)
- 2月 7日 物流業界合同説明会(東京会場)
- 2月 12日 令和7年度 第2回カーボンニュートラル情報交換会、海外物流戦略ワーキングチーム
- 2月 14日 物流業界合同説明会(大阪会場)
- 2月 16日 論説委員・解説委員との懇談会
- 2月 20日 令和7年度 第1回先進技術活用推進情報交換会

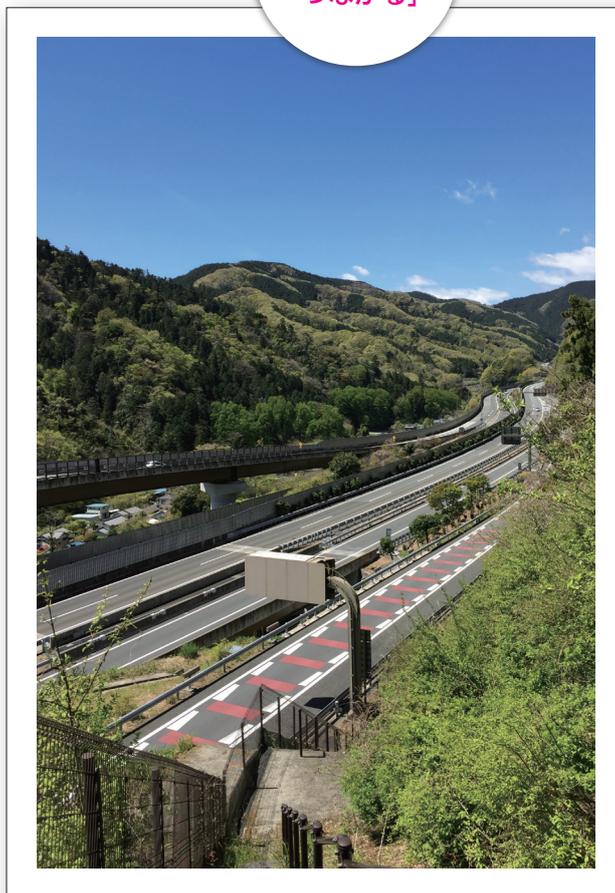
### 編集後記

しばらく海外にいた私にとって、久しぶりの日本の春。桜や新緑、おでかけの季節が楽しみでした。ところが、桜の開花の前に、先にやってきたのは花粉症。鼻をすすり、目をこする日々の始まりです。「もう冬が終わるんだなあ」と、スギ花粉で季節の変わり目を実感する今日この頃。(M.S.)

桜前線は例年より早く北上するようですね。いい季節へと向かう中、海外での深刻な紛争に巻き込まれた人々に思いを馳せる日々です。生命の危険は勿論ですが、物流は滞ってないでしょうか。物流が正常に機能するのは平和な環境あってこそ、我が国の平和のありがたみを噛みしめています。(S.N.)

表紙の写真

テーマ  
「明日に  
つながる」



### 高尾山麓を抜ける中央自動車道

東京都杉並区の高井戸ICから愛知県小牧市の小牧JCT、および途中の山梨県大月市の大月JCTで分岐して山梨県富士吉田市の富士吉田ICを結ぶ中央自動車道（中央道）は、日本を代表する物流の大動脈の一つ。東名高速道路と共に、東京～名古屋間を結んでおり、相互に代替する機能を担っている。日本国内の高速道路の中では、特に標高の高い地域を経由しており、東京を出発した車は高尾山麓を抜けて神奈川県に入る。